

公益社団法人私立大学情報教育協会

平成 24 年度第 1 回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会 議事記録

I. 日 時：平成 24 年 5 月 26 日(土) 10:30~12:30

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、伊藤委員、和田委員、田村委員、前野委員、本村委員(Skype)

事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 全体の整理

- ・ 1 月にガバナンスに向けた教育改善モデルを提案、5 年先の授業を目指して 30 の学問分野で研究してきた。そこに情報を束ねて、情報専門分科会で情報通信系とコンテンツ・サービス系の学士力から授業モデルを検討する。30 の学問分野で、多面的な学びをやるために他分野が入ってくるので、全体を俯瞰するための学びとしている。リテラシーは 30 の学問分野の底辺に置かれるもので、分野共通の先生にも発展的部分を活用してもらうことを考え、戦略的に分野の部分で使ってもらう。ガイドラインについては、情報担当の先生が実施するのか、学校によって違うが担保してもらう必要があり、分野の先生にやってもらう場合はプランを考えたい。高校で教育の中で重視していないことから、高校、大学の現状に、どういう教育システムで担保するのか提示の必要がある。
- ・ 入試については、28 年度には入試センターには入れないことから、大学入試小委員会を設置して対策を考える。私立大学でも情報を入試に入れてる大学が少ない。社会の基盤としての必要性、成長から成熟社会へのコンセプトを変えていく必要がある。
- ・ 30 の委員会で教育改善モデルを検討している、教員がチームをつくる、学修時間の実質的な確保含め、単位の実質化になっていない。教育課程の体系化、科目のナンバリングが必要で教員ないで体系的な組織的な取り組みが必要、シラバスの充実など。
- ・ 学習時間の確保に、成果主義、補助金の分配を取り組み状況に反映される。国の発展は大学教育に寄りかかっている。
- ・ 9 月までに、情報リテラシー教育を大学のカリキュラムの実現のために、仕掛けの工夫を A、B、C で出し、リテラシー教育の方向性について 9 月の ICT 戦略大会で発表し意見をもらい修正していきたい。
- ・ すべての教科の根底として、大学に合わせて提案していく。参考として、<http://www.juce.jp/rinri-gakushiryoku/>や <http://www.juce.jp/computer-edu/>。大学における情報リテラシー教育の方向性、方策や課題など。学問共通な卒業するまでのものとして、例えば大学としてどこまでリテラシー教育としてすべきかを提示してはどうか。学ぶ目標から技術などについて、リテラシーのガイドラインに戦略や実施の仕方などを付加していく。

2. ガイドラインについて

- ・ 到達目標 3 については、大学によっていは高度のレベルになってしまったと思われ、汎用化するべきではないか。対案などを考えてみることにした。到達目標 1, 2 については

分野共通の内容にもなっているがメリハリを出しても良いか、到達目標 3 は高校の情報科学と連携を考えて作成されている。優先度の度合あっても学年進行のなかで活用できるものとする。授業提案か事例などを到達目標 3 だけには入れることを考える。

- ・ 測定方法の振り返り、授業の点検評価の考え方を入れる。FD の実施から、教員として持つべき教育力が出てくると思われる。教員が持つべき専門の能力と授業をデザイン・実施する能力。
- ・ 倫理の教育が不足しているのが、実施する仕掛けを提案するために、授業例、授業のデザインなどを出してはどうか。

V. 今後の予定について

- ・ ガイドラインの汎用的な見直しとして、到達目標 3 のについて各大学に汎用的な対案と授業提案か事例などを追加する。
- ・ 倫理教育を実施する提案のために、授業例、授業のデザインなどを追加する。
- ・ 教育体制について（そこから今後、教育力、授業の振り返り、点検評価などの検討に進む）